

## 1 事業名 ボランティア活動入門セミナー

### 2 必要性

多くの青年が、ボランティア活動に内在する様々な学びを全人的な成長への足がかりとしながら、社会にとって有用な人材に巣立っていくための支援をすることは青少年教育施設の使命である。また、ボランティア活動に参加する青年の裾野を広げ、あらゆる活動の中でリーダーシップを発揮しながら活躍できる青年を育成する事業は社会からの要請があるところである。本事業は国立青少年教育施設が持つ機能を最大限に活かして、青年にボランティア活動に関する学習の機会を提供するものであり、主体的に社会に参画しようとする態度を養成しようとするものである。

### 3 趣旨

ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することでボランティアな心を育むとともに、社会の様々な場面で主体的に活動することのできる人格の形成に資する。

### 4 後援

島根大学、島根県立大学

### 5 期日

平成22年5月21日（金）～23日（日）

### 6 参加者

(1) 募集対象・人数 ボランティア活動に興味関心のある大学生・青年 30名

(2) 参加人数 24名

(上記以外に、ボランティアスタッフとして7名の参加があった。)

(3) 参加者分析 大学生・青年30名の募集に対して、島根大学から14名、島根県立大学短期大学部出雲キャンパスから8名、リハビリテーションカレッジ島根から2名の学生の参加があった。学生の参加のきっかけは、法人ボランティアの誘いがほとんどであった。

(4) 参加地域 島根県24名



「オープニング」今の気持ちをカードで表すと・・・



「SANボラタイム」グループで一枚の写真を表すゲーム

## 7 講師等

宇田川 光雄 氏（目白大学 講師・前国立山口徳地青少年自然の家 所長）

澤田 和憲 氏（日本赤十字社 救急法指導員）

ボランティアスタッフ 7名

（法人ボランティア養成共通カリキュラムの単元別に講師、職員、ボランティアスタッフで分担を決め実施した。）

## 8 参加経費 3,200円

## 9 事業の内容

### （1）事業の特色

本事業は、ボランティアリーダー養成事業の入門編と位置づけ、人間関係能力・コミュニケーション能力等ボランティア活動の基礎基本となる事項を学んでいく機会を提供するものである。また、機構の法人ボランティア養成共通カリキュラムを実施し、当施設でのボランティア活動を希望する者に法人ボランティア登録の機会を提供するものである。さらに、現在登録している法人ボランティアを活動リーダーとすることで活躍の場を提供し、技術の向上を図る。プログラムについては、10月の利用促進・広報業務であるさんべ祭に企画・運営していく法人ボランティアに繋がるよう工夫することとした。

### （2）プログラムデザインと企画のポイント

今回のプログラム構成のねらいとして「今後ボランティアスタッフに憧れを持って三瓶でボランティア活動をする」ことを位置づけた。そのため、今回はボランティアスタッフが活躍する場を多く提供し、参加者にボランティア活動をイメージしやすくした。また、ボランティアスタッフにも活躍する場を多くすることでスキルを磨ける場を提供し、双方によりプログラムとした。最後には、「今後もまた三瓶で活動したい」、「このメンバーと一緒に活動したい」と思ってもらうために、グループごとの手紙交換によって絆を深めるプログラムを実施した。

1日目・2日目は、体験を通して学び、最終日は「ボランティア活動の意義」「青少年教育の理解」の部分で、講師に依頼することによって、ボランティアの基礎となる概要を学ぶことを意識した。

### （3）広報のポイント

島根県内の大学・専門学校に直接広報に出向き、チラシをおかせてもらったり、講義の合間にPR活動を行ったりと積極的に広報を行った。またボランティアスタッフが自主的に新しい参加者へ積極的に声がけをした。信頼する先輩からの広報が一番の効果があつた。

(4) 日程表

5/21 (金)	20:00		20:30	21:30		22:00	23:00
		受付	オープニング	みんなが自然とつながる 「カプラ体験」 フランスの積み木で楽しもう！	青少年教育施設の現状と運営① 「交流の家って どんなところ？」	入浴	就寝

5/22 (土)	6:30	9:00	10:00	14:00	17:10	19:00	20:30	23:00
	起床・つどい・朝食	青少年教育施設の現状と運営② 「SAN ボラタイムを 楽しもう！」	アクティビティ体験 「竹で作る バウムクーヘン」 「自然の中で作る野 外炊飯」	救命救急法 「野外活動で 大切な人を守るた めに・・・」 講師：澤田 和憲氏	つどい・夕食	キャンプ ファイヤー 「先輩が語る ボランティア 経験」	入浴・自由・交流会	就寝

5/23 (日)	6:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:30
	起床・つどい・朝食	「ボランティア活動の意義」 「青少年教育の理解」 講師：宇田川 光雄氏	昼食	クロージング 「ふりかえり」	ボランティア登 録手続き& クツプ	解散



竹で作る「バウムクーヘン作り」仲間と協力してじっくり焼いた



万が一に備えた「救命救急法」

(5) 運営のポイント

事業全体を通して、参加者とボランティアスタッフの関わりを特に重視して、「ふりかえり」、「ねらいの共有」の時間を十分に確保した。またグループ編成は、先輩と後輩の親睦を深めることをねらいとして、意図的に参加者のグループの中に一人または二人のボランティアスタッフをおき、生活面・研修面で直接指導することで参加者とボランティアスタッフがコミュニケーションをとりやすいよう工夫した。

(6) 安全管理のポイント

参加者に施設の状況、研修の詳細等についての情報を提供することで安心して研修に参加できるように配慮した。また、参加者の健康管理、安全管理には十分に注意を払い、朝夕のつどいで健康状態の確認を行った。

## (7) アンケートの満足度・主な記述

満足度（参加者24人中）

大変良かった 23人（95.8%） 良かった 1人（4.2%）

- ・ボランティアスタッフの方に指示され活動してみて、本当にすごい！の一言でした。どの指示も的確でテキパキしていてカッコイイとあこがれました。
- ・ボランティアへの考え方がすごく変わりました。ボランティアは、自分も楽しまないと相手も楽しんでもくれないと知り、まずは自分がよりよく変わっていかないといけないと思いました。
- ・またこういった機会があったら、積極的に参加していきたいと思います。

## 1.0 成果と今後の課題

### <成果>

参加者全員が法人ボランティア登録をしたことが一番の成果である。また、参加者から「私もスタッフの皆さんを目指してこれからも頑張っていきたい」という声があり、ボランティアのイメージを持たせたことや、「ボランティアへの考え方がすごく変わりました。」という声が多数アンケートに寄せられ、ボランティアへの考えを根付かせることができたことも大きな成果である。

### <課題>

参加者全員が法人ボランティア登録をしたが、今後当施設のボランティア活動に法人ボランティアが継続して参加できる活動の場所提供や体制作りが必要である。また、参加者が参加募集定員に達していないことも課題であり、今後近隣の広島県内にも広報していきたい。

## 1.1 普及計画・普及実績

島根県内の新聞社・テレビ局等報道機関 26社に広報した結果、地方新聞 2社とケーブルテレビ 1社が事業の一部を取材後、放映・公開し、事業の広報につながった。またHP上に掲載することで事業内容を社会に広く周知するようにした。

## 1.2 その他

当施設の魅力ある活動プログラムの体験や講師、ボランティアスタッフからの「ボランティア活動の意義」といったボランティアの概念を学ぶ有意義なセミナーであった。今後、当施設で自然体験を通して学ぶすばらしさを少しずつでも広げていける取り組みを展開していく必要性を強く感じた。

（担当 楫 絵里子）



人形劇でみる「ボランティア活動の意義」

講師：宇田川 光雄 氏



今後の活動に意気込む参加者たち